

物流機能向上や移動時間短縮

カンボジアの西部に位置するプルサット州、北西部イウエイ1号線」を構成する同国幹線道路の国道5号線（首都プノンペンからタイ国境のポイペトまで）のうち366キロを、国際協力機構（JICA）が有償資金援助で2車線を4車線に拡張する国道改修工事を2017年から進めている。全8工区のうち中央工区のプルサット〜プレイスベイト間47キロの施工を大林組が担当した。



竣工後のNo.59橋梁

首都プノンペンと隣国タイを結ぶ国道5号線は、カンボジアの基幹道路であるとともに、東南アジア諸国連合（ASEAN）

国道5号線改修事業（スレアマム〜バットンバン間、シソポン〜ポイペト間）コントラクトパッケージ2（カンボジア）

N」を道路でつなぐ経済の大動脈「南部経済回廊」の一部。同国の経済発展に不可欠な存在となっている。幅員不足などの箇所もあり、国内・国際物流の増加に対応するには、既存道路の改修が求められている。

同社担当の工区は工期が19年4月〜22年9月。施工期間中は、国道交通流の維持のため47キロ全線の迂回（うかい）路のメンテナンスに注力。第三者への安全確保や近隣住民への環境対策に十分配慮し、国道の4車線化を進めた。カンボジアの技術者や重機オペレーター、作業員などへのOJTを日々粘り強く継続した。結果、カンボジア人の手で高品質の道路を完成させた。

洪水被害や新型コロナウイルス感染症の影響に見舞



4車線化された一般道路部

を2橋建設した。代表的なものに、全長100メートル（20メートル×5）、全長50メートル（15メートル×3）+20メートル（15メートル×2）などの橋がある。

一方で、現地の立地条件に適していない既設3橋（12メートル×3）の拡張は、発注者やエンジニアと協議し、2橋をボックスカルバート構造に、1橋でスパン長を広げるという設計変更を行った。

4車線化された一般道路部の中央分離帯にはガードレールを設置した。また、アーバンエリア（都市部）で4車線化した道路の交差点部にはコンクリート舗装を施し、右折レーンなども設置した。ルーラルエリア（地方部）は主に田んぼなどの湿地帯が多く、沿線に民家や精米工場などが散在している。担当区間の47キロを4車線化し、物流機能はもちろん、地域全体の交通機能の改善に大きく貢献した。

施工エリアに8カ所の橋梁工事があり、そのうち5橋は原設計通り既存橋を撤去し、新たに2車線の橋梁

